

記者発表資料(資料配布)				
発表日	担当課名	電話	発表者名(担当者)	その他配布先
9月16日(水)	病院局経営課	078-362-3301 内線:3464	経営課長 山平 和雄 (経営班長 増田 稔)	阪神南、東播磨、中播磨、 西播磨、丹波、淡路各県民 局(県民センター)

令和元年度 兵庫県病院事業の経営状況について

1 経営状況 (13 病院)

- 令和元年度は、各病院が収益の確保や費用の抑制など、経営改善に取り組んだものの、給与改定による給与費の増や薬品費・診療材料費の増などによる収支構造の変化に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う入院病床の確保、受診控え等の影響により、経常損益は3,126百万円の赤字、純損益は3,988百万円の赤字となった。
- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症の影響による減収があったものの、新たな施設基準の取得や手術件数の増加等により入院収益が増加したほか、化学療法の外来への移行による患者数の増加等により外来収益が増加するなど前年度から26億円増加し1,354億円となった。また、特別利益を含む収益全体では、前年度から26億円増加し、1,365億円となった。
- 経常費用は、診療機能の高度化に伴う医師等の増員や給与改定による給与費の増、医業収益の増に連動した材料費の増、丹波医療センターの開院等による経費の増などにより、前年度から54億円増加し1,386億円となった。また、特別損失を含む費用全体では、前年度から66億円増加し、1,405億円となった。

決算状況(13病院)

(単位:百万円)

区分	平成30年度	令和元年度	前年度比較		
			増減	割合(%)	
経常収益	入院収益	74,572	75,322	750	101.0
	外来収益	31,259	33,414	2,155	106.9
	その他医業収益	2,584	2,745	161	106.2
	医業収益計	108,415	111,481	3,066	102.8
	一般会計繰入金	15,972	15,978	6	100.0
	その他収益	8,437	7,986	△451	94.7
	合計①	132,824	135,445	2,621	102.0
経常費用	給与費	64,353	67,028	2,675	104.2
	材料費	35,928	38,377	2,449	106.8
	経費	19,015	20,333	1,318	106.9
	その他医業費用	11,625	10,529	△1,096	90.6
	医業費用計	130,921	136,266	5,345	104.1
	その他費用	2,285	2,305	20	100.9
	合計②	133,207	138,571	5,364	104.0
経常損益③(①-②)	△382	△3,126	△2,744	—	
特別利益④	1,103	1,032	△71	93.6	
特別損失⑤	699	1,894	1,195	271.0	
当期純損益⑥(③+④-⑤)	21	△3,988	△4,009	—	

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

(単位:百万円)

区分	尼崎	西宮	加古川	丹波	淡路	こころ	こども	がん	姫路	粒子線		10病院計	指定管理			計	
										たつの	神戸陽子		災害	リハ中	リハ西		
H30決算	経常損益	306	224	△132	△209	63	△81	△109	173	93	△64	△646	△382	(△73)	(11)	(10)	△382 (△52)
	純損益	25	215	△174	△383	63	△86	827	153	91	△62	△646	21	(△73)	(11)	(10)	21 (△52)
R元決算	経常損益	△281	△88	△104	△981	54	△377	△63	△159	△240	△337	△550	△3,126	(29)	(12)	(29)	△3,126 (70)
	純損益	△305	△121	△188	△1,540	61	△377	△165	△182	△281	△338	△552	△3,988	(29)	(12)	(29)	△3,988 (70)

※ () 書きは指定管理病院の決算を記載

業務量(13病院)

区 分		単 位	平成30年度	令和元年度	前年度比較
入 院	病床数(年度末)	床	3,886	3,940	54
	病床利用率	%	82.7	81.6	△ 1.1
	延患者数	人	1,173,046	1,176,633	3,587
	1日当たり患者数	人/日	3,214	3,215	1
	平均在院日数	日	13.5	13.4	△ 0.1
	入院単価	円	68,478	69,199	721
外 来	延患者数	人	1,574,448	1,603,257	28,809
	1日当たり患者数	人/日	6,453	6,680	227
	外来単価	円	20,737	21,715	978

2 資本的収支

(1) 決算状況

(単位:百万円)

区 分		平成30年度	令和元年度	前年増減	主な内訳
収 入	企業債	13,565	13,883	318	企業債を財源とする建設改良費の増に伴う増
	負担金	12,168	7,138	△ 5,030	一般会計からの繰入金調整の精算(H30)等に伴う減
	その他収入	4,842	1,950	△ 2,892	丹波医療センター整備事業にかかる諸収入の減 等 △2,512(2,512→0)
	合 計	30,575	22,971	△ 7,604	
支 出	建設改良費	17,511	15,888	△ 1,623	丹波医療センター整備事業△9,016(12,804→3,788) はりま姫路総合医療センター(仮称)整備事業+4,481(715→5,196) 医療機器整備事業+2,829(2,578→5,407)
	企業債償還金	9,832	9,718	△ 114	実績減
	その他支出	7,082	153	△ 6,929	繰入金調整の精算に伴う一般会計への長期借入金の償還(H30)等に伴う減
	合 計	34,425	25,759	△ 8,666	
差 引		△ 3,850	△ 2,788	1,062	内部留保資金で補てん

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

(2) 主な整備事業

ア 丹波医療センター整備事業

総事業費 212 億円(うち R 元年度 38 億円)

イ はりま姫路総合医療センター(仮称)整備事業

総事業費 408 億円(うち R 元年度 52 億円)

3 累積欠損金、内部留保資金等

令和元年度末の累積欠損金は、令和元年度の当期純損益（税抜き）が40億円の赤字となったことから292億円となり、12億円の債務超過となった。

また、内部留保資金の残高は、令和元年度末で34億円となった。

(単位:百万円)

区分	平成30年度	令和元年度
当期純損益	25	△ 4,004
累積欠損金	△ 25,231	△ 29,235
資本合計	2,581	△ 1,249
内部留保資金残高	4,041	3,432

※ 金額は損益計算書ベース(税抜き)で作成

(参考：令和元年度決算の特色等)

1 新型コロナウイルス感染症の影響等

新型コロナウイルス感染症の影響による減収（14億円）等により、経常損益、純損益ともに赤字

(単位：百万円)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
経常損益	483	△608	△4,248	△2,087	104	△382	△3,126
純損益	△1,479	△1,427	△9,139	△5,599	12	21	△3,988

2 令和2年度の取組

元年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な経営悪化が見込まれるが、第2波、第3波に備えた一定の入院病床の確保に加え、感染防止対策を徹底したうえで、段階的に通常の医療体制を戻すことを目標に、経営の立て直しに取り組む。

記者発表（資料配布）

月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	尼崎総合医療センター 経営企画部	代表 06-6480-7000 内線 4049	管理局長 菅原 誠 (経営企画部長 葉山 琢)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立尼崎総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、新型コロナウイルス感染症に伴う入院病床の確保や救急患者、紹介患者の受け入れ制限、手術の延期等による減収はあったものの、地域連携の推進等による新規患者数の増加や手術件数や外来化学療法件数の増加等による診療単価の向上により前年度から 685 百万円増加し、36,232 百万円となった。
- 経常費用は、医師等の増加に伴う給与費の増や、手術件数や高額医薬品使用の増加による材料費の増等により、前年度から 1,272 百万円増加し、36,513 百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度から 587 百万円悪化し 281 百万円の赤字となった。また、特別損益を含む純損益は、前年度から 330 百万円悪化し 305 百万円の赤字となった。
- なお、新型コロナウイルス感染症の影響による減収額は、4 億円程度と試算している。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	730	730	0	100.0	
	入院	延患者数	人	251,602	248,179	△ 3,423	98.6
		1日当たり患者数	人	689	678	△ 11	98.4
		新規患者数	人	23,771	23,852	81	100.3
		平均在院日数	日	9.6	9.4	△ 0.2	97.9
		診療単価	円	87,713	88,521	808	100.9
	外来	延患者数	人	460,848	471,273	10,425	102.3
		1日当たり患者数	人	1,889	1,964	75	104.0
		新規患者数	人	34,319	34,441	122	100.4
		診療単価	円	18,112	19,454	1,342	107.4
経常収益	入院収益	百万円	22,069	21,969	△ 100	99.5	
	外来収益	百万円	8,347	9,168	821	109.8	
	その他医業収益	百万円	706	726	20	102.8	
	医業収益計	百万円	31,122	31,863	741	102.4	
	一般会計繰入金	百万円	2,892	2,850	△ 42	98.5	
	その他収益	百万円	1,533	1,519	△ 14	99.1	
	合計①	百万円	35,547	36,232	685	101.9	
経常費用	給与費	百万円	17,004	17,446	442	102.6	
	材料費	百万円	10,687	11,470	783	107.3	
	経費	百万円	4,472	4,684	212	104.7	
	その他医業費用	百万円	2,651	2,582	△ 69	97.4	
	医業費用計	百万円	34,813	36,182	1,369	103.9	
	その他費用	百万円	428	331	△ 97	77.3	
	合計②	百万円	35,241	36,513	1,272	103.6	
経常損益③(①-②)	百万円	306	△ 281	△ 587	-		
特別利益④	百万円	61	40	△ 21	65.6		
特別損失⑤	百万円	342	64	△ 278	18.7		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	25	△ 305	△ 330	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

①医療の効率性向上

- ・PFM-AGMCによる平均在院日数の適正化（H30 9.6日→R1 9.4日）
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの縮減（H30 22.4%→R1 21.3%）
- ・クリニカルパス適用率の拡大（H30 41.4%→R1 46.2%）

②集中系治療室の効率的運用

- ・患者の重症度・緊急度に適合する最適なベッドコントロール
- ・集中治療医の連携強化による柔軟なベッドコントロール

③オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

④診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

(2) 医療機器の整備

①手術顕微鏡（約50百万円）の整備（元年9月）

②ホルミウムヤグレーザー（約40百万円）の整備（元年8月）

3 今後の取組

①医療の効率性向上

- ・PFM-AGMCによる平均在院日数の適正化
- ・DPC入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの縮減
- ・クリニカルパス適用率の拡大

②集中系治療室の効率的運用

- ・患者の重症度・緊急度に適合する最適なベッドコントロール
- ・集中治療医の連携強化による柔軟なベッドコントロール

③オペ室の効率的運用

- ・オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・外保連指数の向上

④診療材料費の適正化

- ・ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

⑤診療報酬改定への対応

- ・新設された施設基準の取得（地域医療体制確保加算 等）

【参 考】 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	西宮病院 総務部	代表0798-34-5151 内線3201	管理局長 橋本 盛方 (総務部長 細見 和正)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立西宮病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症の影響による減収や、1日当たり患者数は入院・外来とも増加したものの、高額手術件数の減等による入院収益の減少等により、前年度から138百万円減少し、12,419百万円となった。
- (2) 経常費用は、医師の増員や給与改定による給与費の増、委託料等の経費の増加等により、前年度から174百万円増加し、12,507百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度の224百万円の黒字から、312百万円減少し、88百万円の赤字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	400	400	0	100.0	
	入院	延患者数	人	125,721	126,165	444	100.4
		1日当たり患者数	人	344	345	1	100.3
		新規患者数	人	11,902	11,212	△ 690	94.2
		平均在院日数	日	9.6	10.2	0.6	106.3
		診療単価	円	61,850	60,900	△ 950	98.5
	外来	延患者数	人	163,388	161,370	△ 2,018	98.8
		1日当たり患者数	人	670	672	2	100.3
新規患者数		人	13,805	12,810	△ 995	92.8	
	診療単価	円	17,076	17,290	214	101.3	
経常収益	入院収益	百万円	7,776	7,683	△ 93	98.8	
	外来収益	百万円	2,790	2,790	0	100.0	
	その他医業収益	百万円	279	274	△ 5	98.2	
	医業収益計	百万円	10,845	10,748	△ 97	99.1	
	一般会計繰入金	百万円	1,242	1,182	△ 60	95.2	
	その他収益	百万円	469	489	20	104.3	
	合計①	百万円	12,557	12,419	△ 138	98.9	
経常費用	給与費	百万円	6,981	7,078	97	101.4	
	材料費	百万円	2,929	2,972	43	101.5	
	経費	百万円	1,539	1,658	119	107.7	
	その他医業費用	百万円	742	687	△ 55	92.6	
	医業費用計	百万円	12,191	12,394	203	101.7	
	その他費用	百万円	142	113	△ 29	79.6	
合計②	百万円	12,333	12,507	174	101.4		
経常損益③(①-②)	百万円	224	△ 88	△ 312	-		
特別利益④	百万円	7	8	1	114.3		
特別損失⑤	百万円	16	42	26	262.5		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	215	△ 121	△ 336	-		

※ 金額は税込。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 生活習慣病センターの設置（31年4月～）
- ② 入退院支援センターの充実（パス適用以外の患者に拡大）
- ③ 救急医療の充実（DMA Tカー、ラピッドレスポンスカーの運用による広域からの重症患者の積極的受入等）

(2) 医療機器の整備

- ① 内視鏡画像診断支援システム（A I内視鏡）（約13百万円）の導入（元年7月）
- ② 超広角走査レーザー検眼鏡（約24百万円）の導入（元年8月）
- ③ 血管連続撮影装置（約184百万円）の更新（元年9月）
- ④ 移動型外科用X線透視診断装置（約21百万円）の更新（元年9月）
- ⑤ 自動病理組織標本作成装置（約25百万円）の導入（元年9月）

3 今後の取組

- ① 救急患者受入体制の充実（陰圧室の整備及び四肢外傷センターの体制充実）
- ② ダヴィンチ適用手術の拡大（直腸がん及び子宮体がん）
- ③ 血液疾患患者に対応する無菌室の増設
- ④ 手術認定看護師、緩和ケア認定看護師の配置
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策の充実
- ⑥ 統合新病院の設計業務の推進

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	県立加古川医療センター 総務部	代表 079-497-7000	管理局長 十都 和弘 (総務部長 門田 高弘)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立加古川医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、手術件数の増加等に伴う入院患者数の増加、高額注射薬の使用増等による外来診療単価の上昇などにより入院収益、外来収益とも増加し、前年度から215百万円増の12,964百万円となった。
- (2) 経常費用は、収益に連動して材料費が増加したほか、人件費の上昇による委託料や、建物・医療機器の不具合に伴う修繕費などの経費の増加等により、前年度から187百万円増の13,068百万円となった。
- (3) 経常損益は、前年度より28百万円改善したものの、新型コロナウイルス感染症に伴う入院病床の確保、受診控え等の影響もあり、104百万円の赤字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	353	353	0	100.0	
	入院	延患者数	人	100,280	105,137	4,857	104.8
		1日当たり患者数	人	275	287	12	104.4
		新規患者数	人	7,032	7,417	385	105.5
		平均在院日数	日	11.5	11.4	△0.1	99.1
		診療単価	円	66,448	64,274	△2,174	96.7
	外来	延患者数	人	182,509	181,041	△1,468	99.2
		1日当たり患者数	人	748	754	6	100.8
		新規患者数	人	9,988	10,425	437	104.4
		診療単価	円	18,479	19,261	782	104.2
経常収益	入院収益	百万円	6,663	6,758	95	101.4	
	外来収益	百万円	3,373	3,487	114	103.4	
	その他医業収益	百万円	312	337	25	108.0	
	医業収益計	百万円	10,348	10,581	233	102.3	
	一般会計繰入金	百万円	1,386	1,344	△42	97.0	
	その他収益	百万円	1,015	1,039	24	102.4	
	合計①	百万円	12,749	12,964	215	101.7	
経常費用	給与費	百万円	6,472	6,465	△7	99.9	
	材料費	百万円	3,188	3,283	95	103.0	
	経費	百万円	1,786	1,899	113	106.3	
	その他医業費用	百万円	1,103	1,106	3	100.3	
	医業費用計	百万円	12,548	12,753	205	101.6	
	その他費用	百万円	332	315	△17	94.9	
	合計②	百万円	12,881	13,068	187	101.5	
経常損益③(①-②)	百万円	△132	△104	28	-		
特別利益④	百万円	14	21	7	150.0		
特別損失⑤	百万円	57	105	48	184.2		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△174	△188	△14	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 肝疾患センター、骨粗しょう症センターの設置（31年4月～）
- ② ハイケアユニット入院管理料1の取得（2年1月～）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① HCUの改修・整備（30百万円）（元年11月）
- ② ナースコールの整備（更新）（11百万円）（元年9月）
- ③ CT搭載型ガンマカメラ装置（69百万円）の整備（更新）（元年9月）
- ④ 注射薬払出装置（57百万円）の整備（更新）（元年9月）

3 今後の取組

- ① 新型コロナウイルス感染症拠点病院として、求められる患者対応
- ② 肝疾患センター、骨粗しょう症センターなど、当院の強みの「見える化」の推進
- ③ 関係医療機関への訪問の実施やホームページ、情報誌を活用した情報発信等による地域医療連携の強化
- ④ 生活習慣病等の教室や啓発事業、フォーラム開催等による疾患や予防を広く知る場の積極的な提供とPRの充実
（令和2年10月17日（土）新型コロナウイルスをテーマとした県かこ県民フォーラムの開催など）

【参 考】 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	県立丹波医療センター 総務部	代表 0795-88-5200 内線 1321	管理局長 齊藤 芳樹 (総務部長 山田 義明)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立丹波医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響はあったものの、柏原赤十字病院との統合新病院開院に伴う、入院、外来患者数の増加、手術件数の増加等により前年度から1,478百万円増加し、6,910百万円となった。
- (2) 経常費用は、医療スタッフ充実による給与費や、新病院の開院、移転に伴う経費の増加等により前年度から2,249百万円増加し、7,890百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度から772百万円悪化し、981百万円の赤字となった。
- (4) また、旧病院の建物や機器等の除却処分等に伴う特別利益を937百万円、特別損失を1,497百万円計上した。
- (5) その結果、純損益は前年度から1,157百万円悪化し1,540百万円の赤字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	184	238	54	129.3	
	入院	延患者数	人	58,535	70,063	11,528	119.7
		1日当たり患者数	人	160	191	31	119.4
		新規患者数	人	4,781	5,434	653	113.7
		平均在院日数	日	11.3	11.9	0.6	105.3
		診療単価	円	52,881	51,959	△ 922	98.3
	外来	延患者数	人	90,930	117,110	26,180	128.8
		1日当たり患者数	人	373	488	115	130.8
		新規患者数	人	12,456	16,962	4,506	136.2
		診療単価	円	12,413	13,318	905	107.3
経常収益	入院収益	百万円	3,095	3,640	545	117.6	
	外来収益	百万円	1,129	1,560	431	138.2	
	その他医業収益	百万円	114	290	176	254.4	
	医業収益計	百万円	4,338	5,490	1,152	126.6	
	一般会計繰入金	百万円	864	1,017	153	117.7	
	その他収益	百万円	230	403	173	175.2	
	合計①	百万円	5,432	6,910	1,478	127.2	
経常費用	給与費	百万円	3,374	4,456	1,082	132.1	
	材料費	百万円	879	1,243	364	141.4	
	経費	百万円	1,137	1,771	634	155.8	
	その他医業費用	百万円	188	192	4	102.1	
	医業費用計	百万円	5,579	7,662	2,083	137.3	
	その他費用	百万円	62	229	167	369.4	
	合計②	百万円	5,641	7,890	2,249	139.9	
経常損益③(①-②)	百万円	△ 209	△ 981	△ 772	—		
特別利益④	百万円	14	937	923	—		
特別損失⑤	百万円	188	1,497	1,309	796.3		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 383	△ 1,540	△ 1,157	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 地域医療循環型人材育成プログラムの継続実施（平成20年10月～神戸大学に委託）
- ② 第二種感染症指定医療機関の指定（令和元年7月1日）
- ③ 新病院開院に伴い稼動病床が184床から238床へ、うちHCUが4床から6床へ増床
- ④ 透析室の設置（令和元年7月1日）
- ⑤ 麻酔科常勤医1名配置（令和元年7月～）

(2) 施設・医療機器の整備

新病院開院に伴う医療機器の整備

- ① 全身用コンピューター断層撮影装置（CT）（約146百万円）の更新（元年6月）
- ② 磁気共鳴コンピューター断層撮影装置（MRI）（約194百万円）の整備（元年6月）
- ③ 血管撮影用X線透視診断装置（約188百万円）の整備（元年6月）
- ④ 生体情報モニタリングシステム（92百万円）の整備（元年6月）
- ⑤ 人工透析システム（約68百万円）の整備（元年6月）

3 今後の取組

- ① 入院病床の確保等、新型コロナウイルス感染症への的確な対応
- ② 丹波市ミルネ診療所、健診センター、訪問看護ステーションとの一体的な運営による患者及び収益の確保
- ③ 消防本部との連携強化による救急患者の受入れ促進
- ④ オープンセミナー等の開催による地域医療機関との連携強化
- ⑤ 地域医療教育センターによる人材育成の推進

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	淡路医療センター 総務部	0799-22-1200 (代表)	管理局長 坂本 裕昭 (総務部長 和田 浩二)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立淡路医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、手術件数の増加に伴い新規入院患者数が増加したことやHCU病床の増床、特定入院料算定病床の効率的稼働、高額手術件数の増加、化学療法患者数の増加等に伴う診療単価の向上等により、前年度に比べ1,084百万円増加し、14,849百万円となった。
- 経常費用は、退職給与金の増による給与費の増加、手術件数や化学療法患者の増加など医業収益増に連動する材料費の増加等により、前年度に比べ1,092百万円増加し、14,795百万円となった。
- 経常損益は、54百万円の黒字となり、特別損益を含めた純損益も、前年度より百万円減少したが、62百万円の黒字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	441	441	0	100.0	
	入院	延患者数	人	135,361	133,351	△ 2,010	98.5
		1日当たり患者数	人	371	364	△ 7	98.1
		新規患者数	人	9,154	9,755	601	106.6
		平均在院日数	日	13.8	12.7	△ 1.1	92.0
		診療単価	円	62,414	68,401	5,987	109.6
	外来	延患者数	人	201,679	197,824	△ 3,855	98.1
		1日当たり患者数	人	827	824	△ 3	99.6
		新規患者数	人	17,140	16,616	△ 524	96.9
		診療単価	円	13,078	15,140	2,062	115.8
経常収益	入院収益	百万円	8,448	9,121	673	108.0	
	外来収益	百万円	2,638	2,995	357	113.5	
	その他医業収益	百万円	200	218	18	109.0	
	医業収益計	百万円	11,286	12,335	1,049	109.3	
	一般会計繰入金	百万円	1,612	1,635	23	101.4	
	その他収益	百万円	867	880	13	101.5	
	合計①	百万円	13,765	14,849	1,084	107.9	
経常費用	給与費	百万円	7,115	7,382	267	103.8	
	材料費	百万円	3,290	4,004	714	121.7	
	経費	百万円	1,820	1,958	138	107.6	
	その他医業費用	百万円	1,189	1,178	△ 11	99.1	
	医業費用計	百万円	13,414	14,522	1,108	108.3	
	その他費用	百万円	289	273	△ 16	94.5	
	合計②	百万円	13,703	14,795	1,092	108.0	
経常損益③(①-②)	百万円	63	54	△ 9	—		
特別利益④	百万円	3	16	13	533.3		
特別損失⑤	百万円	3	8	5	266.7		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	63	62	△ 1	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① HCU病床を6床から9床へ増床（元年6月～）
- ② 心臓リハビリテーションの強化充実（元年6月～）
- ③ 産婦人科の里帰り出産受入制限の解除（元年10月～）
- ④ 慢性肺疾患患者への呼吸器リハビリテーションの導入（元年10月～）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 白内障手術システム（約13百万円）の整備（元年7月～）
- ② 3D腹腔鏡手術システム（約22百万円）の整備（元年9月～）
- ③ 超音波画像診断装置（約19百万円）の整備（元年9月～）
- ④ 歯科X線CT撮影装置（約23百万円）の整備（元年9月～）
- ⑤ 脳外科手術顕微鏡（約71百万円）の整備（元年9月～）
- ⑥ X線骨密度測定装置（約15百万円）の整備（元年9月～）
- ⑦ 内視鏡ファイリングシステム（約23百万円）の整備（2年2月～）

3 今後の取組

- ① 特定入院料算定病床の拡充による高度急性期医療機能の強化
- ② 心臓リハビリテーションの強化充実
- ③ 慢性肺疾患患者への呼吸器リハビリテーションの強化充実
- ④ 産科医療の充実に向けた助産師外来の拡充や院内助産の開設準備
- ⑤ 血管造影X線検査及び治療の拡充に向けた施設整備
- ⑥ 各診療科各部門の他職種連携による地域外傷センターの機能強化
- ⑦ 適切な病床管理、効率的な手術室の運用、地域医療連携の推進、経費の節減

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	県立ひょうごこころの 医療センター総務部	代表 078-581-1013 内線 2612	管理局長 崎濱 昭彦 (総務部長 高崎 徳子)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立ひょうごこころの医療センターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、長期入院患者の退院促進（在宅での外来通院化）により、入院の業務量（延患者数・診療単価）が減少し、外来の業務量がほぼ前年並みとなったことから、前年度より164百万円減少の3,791百万円となった。
- 経常費用は、退職金等の増により給与費が大きく増加したことから、前年度より131百万円増加の4,168百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度より296百万円悪化し377百万円のマイナスとなった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	286	286	0	100.0	
	入院	延患者数	人	75,684	68,407	△ 7,277	90.4
		1日当たり患者数	人	207	187	△ 20	90.3
		新規患者数	人	985	792	△ 193	80.4
		診療単価	円	24,199	23,620	△ 579	97.6
	外来	延患者数	人	51,544	51,122	△ 422	99.2
		1日当たり患者数	人	211	213	2	100.9
		新規患者数	人	1,775	1,719	△ 56	96.8
診療単価		円	6,933	6,900	△ 33	99.5	
経常収益	入院収益	百万円	1,831	1,616	△ 215	88.3	
	外来収益	百万円	357	353	△ 4	98.9	
	その他医業収益	百万円	16	17	1	106.3	
	医業収益計	百万円	2,205	1,985	△ 220	90.0	
	一般会計繰入金	百万円	1,527	1,576	49	103.2	
	その他収益	百万円	223	230	7	103.1	
	合計①	百万円	3,955	3,791	△ 164	95.9	
経常費用	給与費	百万円	2,872	3,019	147	105.1	
	材料費	百万円	179	172	△ 7	96.1	
	経費	百万円	554	560	6	101.1	
	その他医業費用	百万円	305	298	△ 7	97.7	
	医業費用計	百万円	3,910	4,049	139	103.6	
	その他費用	百万円	127	119	△ 8	93.7	
	合計②	百万円	4,037	4,168	131	103.2	
経常損益 ③(①-②)	百万円	△ 81	△ 377	△ 296	—		
特別利益 ④	百万円	1	2	1	200.0		
特別損失 ⑤	百万円	6	3	△ 3	50.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 86	△ 377	△ 291	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

- 診療機能の充実：精神疾患のあるコロナ疑い患者・陽性患者の受け入れ（2年3月～）
：外来における電話再診の拡大（2年3月～）
- 施設の整備：病棟熱源設備等更新（約44百万円）の整備（一部2か年継続工事）

3 今後の取組

：救急患者の受け入れ再開・促進

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	こども病院 総務部	代表 078-945-7300 内線 24010	管理局長 種池 寛 (総務部長 安木 雅喜)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立こども病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、入院単価が下がったものの、血液・腫瘍内科、新生児内科、産科の新規患者増等による入院収益の増加や、アレルギー科、救急科の再診患者増等による外来収益の増加等により、前年度から108百万円増加し、13,389百万円となった。
- (2) 経常費用は、委託料や減価償却費が減少した一方、退職給与金の増加による給与費の増等により、前年度から62百万円増加し、13,452百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度より46百万円改善したが、63百万円の赤字となった。
- (4) なお、前年度は旧病院跡地の売却益950百万円を特別利益に計上していたこと、今年度は旧病院跡地土壌汚染調査費用等を特別損失に計上したことにより、純損益は、前年度より991百万円悪化し、164百万円の赤字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	275	275	0	100.0	
	入院	延患者数	人	79,417	87,299	7,882	109.9
		1日当たり患者数	人	218	239	21	109.6
		新規患者数	人	6,213	6,814	601	109.7
		平均在院日数	日	11.8	11.8	0.0	100.0
		診療単価	円	100,843	93,241	△ 7,602	92.5
	外来	延患者数	人	99,518	103,385	3,867	103.9
		1日当たり患者数	人	408	431	23	105.6
		新規患者数	人	13,019	13,487	468	103.6
		診療単価	円	17,365	17,569	204	101.2
経常収益	入院収益	百万円	8,009	8,140	131	101.6	
	外来収益	百万円	1,728	1,816	88	105.1	
	その他医業収益	百万円	135	145	10	107.4	
	医業収益計	百万円	9,872	10,101	229	102.3	
	一般会計繰入金	百万円	2,455	2,386	△ 69	97.2	
	その他収益	百万円	955	902	△ 53	94.5	
	合計①	百万円	13,281	13,389	108	100.8	
経常費用	給与費	百万円	7,637	7,784	147	101.9	
	材料費	百万円	2,110	2,153	43	102.0	
	経費	百万円	2,060	2,022	△ 38	98.2	
	その他医業費用	百万円	1,358	1,291	△ 67	95.1	
	医業費用計	百万円	13,165	13,250	85	100.6	
	その他費用	百万円	225	201	△ 24	89.3	
	合計②	百万円	13,390	13,452	62	100.5	
経常損益③(①-②)	百万円	△ 109	△ 63	46	—		
特別利益④	百万円	956	3	△ 953	0.3		
特別損失⑤	百万円	21	105	84	500.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	827	△ 164	△ 991	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 神戸陽子線センターとの連携による陽子線治療適応患者の受入増加
- ② アレルギー専門医の増員によるアレルギー疾患治療の拡大

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 超音波診断装置（約8百万円）の整備（元年2月）
- ② ハイビジョン内視鏡カメラシステム（約8百万円）の整備（元年1月）

3 今後の取組

- ① 県下唯一の小児専門病院として、高度・先進的な小児医療の実施
- ② 小児3次救急患者を24時間体制で受入可能とする小児救命救急センターの運営
- ③ ハイリスク児及びハイリスク妊産婦の救命救急を図る周産期医療センターの運営
- ④ 難治性小児がんに対して集学的治療等を実践する小児がん医療センターの運営
- ⑤ 先天性心疾患治療における循環器内科と心臓血管外科の連携による小児心臓センターの運営
- ⑥ 軽症から重症・難治性のアレルギー疾患に対応する小児アレルギー疾患センターの運営
- ⑦ 先天異常や小児がん領域のゲノム医療を推進するゲノム医療センターの運営

【参 考】 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水) 10:00	がんセンター 総務部	代表078-929-1151 内線 8180(8017)	管理局長 小野 雅弘 (総務部長 西山 信彦)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立がんセンターの経営状況について

1 経営状況

- 経常収益は、がん治療の均てん化、外来化学療法への移行等により、入院延患者数が減少したが、外来延患者数や手術件数の増加により診療単価が向上したことから前年度に比べ407百万円増加し、17,155百万円となった。
- 経常費用は、外来化学療法での抗がん剤の使用増等により材料費が464百万円増加したことに加え、経費（主に委託料）が124百万円増加したことから、前年度に比べ739百万円増加し、17,314百万円となった。
- その結果、経常損益は、前年度に比べ332百万円減少し、△159百万円となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	377	377	0	100.0	
	入院	延患者数	人	104,959	100,321	△ 4,638	95.6
		1日当たり患者数	人	288	274	△ 14	95.1
		新規患者数	人	7,846	7,997	151	101.9
		平均在院日数	日	12.3	11.6	△ 0.7	94.3
		診療単価	円	66,800	69,313	2,513	103.8
	外来	延患者数	人	158,519	160,654	2,135	101.3
		1日当たり患者数	人	650	669	19	102.9
		新規患者数	人	8,178	8,908	730	108.9
		診療単価	円	48,789	51,168	2,379	104.9
経常収益	入院収益	百万円	7,011	6,954	△ 57	99.2	
	外来収益	百万円	7,734	8,220	486	106.3	
	その他医業収益	百万円	590	509	△ 81	86.3	
	医業収益計	百万円	15,335	15,683	348	102.3	
	一般会計繰入金	百万円	929	925	△ 4	99.6	
	その他収益	百万円	484	547	63	113.0	
	合計①	百万円	16,748	17,155	407	102.4	
経常費用	給与費	百万円	6,647	6,694	47	100.7	
	材料費	百万円	7,389	7,853	464	106.3	
	経費	百万円	1,688	1,812	124	107.3	
	その他医業費用	百万円	753	820	67	108.9	
	医業費用計	百万円	16,477	17,179	702	104.3	
	その他費用	百万円	97	135	38	139.2	
	合計②	百万円	16,575	17,314	739	104.5	
経常損益③(①-②)	百万円	173	△ 159	△ 332	—		
特別利益④	百万円	33	2	△ 31	6.1		
特別損失⑤	百万円	54	24	△ 30	44.4		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	153	△ 182	△ 335	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① ゲノム医療の推進
 - ・がんゲノム医療拠点病院（全国で34機関）に指定（R1.9月）
 - ・遺伝子パネル検査の実施（R1.7月～R2.3月：112件実施）
- ② 治験等臨床試験の充実
 - ・CRC等の増員による臨床試験管理室の体制強化
- ③ 入退院支援センターによる患者サービスの向上
- ④ ダヴィンチ手術（手術支援ロボット）の促進（H25.5月～R2.7月：605例実施）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① PET/CT装置の整備（約235百万円）（R1.9月）
- ② 医療用直線加速装置（リニアック）の整備（約505百万円）（R1.10月）
- ③ 総合医療情報システムの更新（約1,303百万円）（R2.3月）
- ④ 電話交換設備の更新（R1.9月）

3 今後の取り組み

- ① がんゲノム医療拠点病院としての機能強化
 - ・遺伝子パネル検査の実施、検査対象患者への支援
 - ・ゲノム遺伝外来（遺伝カウンセリング）の充実
- ② リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の促進
- ③ 都道府県がん診療連携拠点病院としての連携強化
 - ・地域医療機関への訪問、意見交換
 - ・市内がん検診実施医療機関への患者紹介の働きかけ
 - ・相談支援センターの周知
- ④ 入退院支援センターの機能拡充
- ⑤ 治験・臨床研究の充実
- ⑥ 低侵襲手術等への取り組み
 - ・ダヴィンチ手術適用領域の拡大（胃がん、子宮体がん、肺がん）
- ⑦ 患者サービスの向上
 - ・患者呼出しシステム、自動精算機導入による待ち時間の短縮（R2.4月～）

【参 考】 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	姫路循環器病センター 総務部	079-293-3131 内線 2610	管理局長 大西 武彦 (総務部長 宮崎 伸一)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立姫路循環器病センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院、外来延患者数に影響があったものの、診療単価が向上したこと等により、前年度に比べて5百万円増加し、12,850百万円となった。
- (2) 経常費用は、入院、外来延患者数の減による材料費の減少や委託料の減等による経費の減少があったものの、退職給与金の増等により給与費が増加したことから、前年度に比べて338百万円増加し、13,090百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度に比べて333百万円減少し、△240百万円となった。また、特別損益を含めた純損益は、前年度に比べて371百万円減少し、△280百万円となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	330	330	0	100.0	
	入院	延患者数	人	84,396	83,909	△487	99.4
		1日当たり患者数	人	231	229	△2	99.1
		新規患者数	人	5,916	5,595	△321	94.6
		平均在院日数	日	13.2	14.0	0.8	106.1
		診療単価	円	101,888	103,387	1,499	101.5
	外来	延患者数	人	88,476	83,888	△4,588	94.8
		1日当たり患者数	人	363	350	△13	96.4
		新規患者数	人	6,677	6,180	△497	92.6
		診療単価	円	27,765	27,477	△288	99.0
経常収益	入院収益	百万円	8,599	8,675	76	100.9	
	外来収益	百万円	2,457	2,305	△152	93.8	
	その他医業収益	百万円	172	187	15	108.7	
	医業収益計	百万円	11,227	11,167	△60	99.5	
	一般会計繰入金	百万円	1,195	1,217	22	101.8	
	その他収益	百万円	423	466	43	110.2	
	合計①	百万円	12,845	12,850	5	100.0	
経常費用	給与費	百万円	5,320	5,747	427	108.0	
	材料費	百万円	5,175	5,125	△50	99.0	
	経費	百万円	1,545	1,460	△85	94.5	
	その他医業費用	百万円	654	674	20	103.1	
	医業費用計	百万円	12,694	13,006	312	102.5	
	その他費用	百万円	58	84	26	144.8	
	合計②	百万円	12,752	13,090	338	102.7	
経常損益③(①-②)	百万円	93	△240	△333	—		
特別利益④	百万円	5	3	△2	60.0		
特別損失⑤	百万円	7	44	37	628.6		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	91	△280	△371	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 高度医療の推進
 - ・経皮的僧帽弁クリップ術・経皮的循環補助法(ポンプカテーテル)などの低侵襲手術件数の増
 - ・HCU病床の設置による重症患者の受入れ促進
- ② 地域包括ケア病棟の円滑な運営
- ③ 製鉄記念広畑病院との連携強化・診療体制の拡充

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 磁気共鳴コンピュータ断層撮影装置(約225百万円)の整備(令和元年9月)
- ② 心臓血管連続撮影装置(約146百万円)の整備(令和元年9月)

3 今後の取組

- ① HCU病床の増床による重症患者の受入れ促進
- ② 脳梗塞急性期治療体制の拡充
- ③ 消化器疾患に対する診療体制の充実
- ④ 地域医療連携の強化
- ⑤ 製鉄記念広畑病院との連携強化・診療体制の拡充

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について(別紙のとおり)

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	粒子線医療センター 事務部	代表 0791-58-0100 内線 272	事務部長 山岸 勝弘 (総務課長 長谷川 知子)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立粒子線医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、県立粒子線医療センター（たつの）において実患者数が減少したため、附属神戸陽子線センター（神戸）では実患者数が増加したものの、前年度比1,136百万円減少の2,774百万円となった（内訳 たつの：1,966百万円、神戸：808百万円）。
- (2) 経常費用は、県立粒子線医療センター（たつの）において減価償却費が減少したことにより、前年度比958百万円減少の3,662百万円となった（内訳 たつの：2,304万円、神戸：1,358百万円）。
- (3) 上記の理由により経常損益は、前年度より177百万円悪化し、887百万円の赤字となった（内訳 たつの：△337百万円、神戸：△550百万円）。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	50	50	0	100.0	
	入院	延患者数	人	13,920	10,482	△ 3,438	75.3
		1日当たり患者数	人	38	29	△ 9	76.3
		実患者数	人	314	215	△ 99	68.5
		診療単価	円	76,851	73,088	△ 3,763	95.1
	外来	延患者数	人	11,822	12,037	215	101.8
		1日当たり患者数	人	48	50	2	104.2
		実患者数	人	288	299	11	103.8
診療単価		円	59,881	59,774	△ 107	99.8	
経常収益	入院収益	百万円	1,070	766	△ 304	71.6	
	外来収益	百万円	708	719	11	101.6	
	その他医業収益	百万円	59	42	△ 17	71.2	
	医業収益計	百万円	1,836	1,528	△ 308	83.2	
	一般会計繰入金	百万円	645	583	△ 62	90.4	
	その他収益	百万円	1,429	663	△ 766	46.4	
	合計①	百万円	3,910	2,774	△ 1,136	70.9	
経常費用	給与費	百万円	854	888	34	104.0	
	材料費	百万円	102	100	△ 2	98.0	
	経費	百万円	1,341	1,388	47	103.5	
	その他医業費用	百万円	1,919	900	△ 1,019	46.9	
	医業費用計	百万円	4,215	3,276	△ 939	77.7	
	その他費用	百万円	405	386	△ 19	95.3	
	合計②	百万円	4,620	3,662	△ 958	79.3	
経常損益 ③(①-②)	百万円	△ 710	△ 887	△ 177	—		
特別利益 ④	百万円	8	0	△ 8	0.0		
特別損失 ⑤	百万円	6	3	△ 3	50.0		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 708	△ 890	△ 182	—		

※1 県立粒子線医療センター（たつの）と県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センターを合算している。

※2 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 県立粒子線医療センター、附属神戸陽子線センター、県立がんセンター、県立こども病院によるがん診療ネットワークの構築（テレビ会議システム等を活用したカンサーボードの実施。令和元年度実施回数：525回）
- ② 保険適用の拡大に向けた臨床試験（先進医療B）の実施
- ③ 頭頸部がん患者に係る治療の高度化
- ④ 質の高い集学的治療を実施するために神戸中央市民病院を含む近隣の連携医療機関との診療連携を強化（神戸陽子）

(2) 施設・医療機器の整備

- ・ 可搬式CTを活用したエックス線位置決めシステムの整備
- ・ 治療装置の不具合解消、安定稼働及び高品質機能のフル活用

3 今後の取組

- ① 老朽化した粒子線治療装置の更新を計画的に実施（令和3年度完了予定）
- ② 紹介元医療機関と連携を図るための「粒子線治療連携懇談会」の継続的な開催
- ③ 県民等を対象とした「公開講演会」や「施設見学会」の開催

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月/日 (曜日)	所属名	TEL	発表者名 (担当課長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	兵庫県災害医療センター	078-241-3131 (代表)	事務部長 田中 直彦 (総務課長 松原 良和)	県政記者 クラブ

令和元年度 兵庫県災害医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新規患者及び診療単価の増により入院収益が増加したことなどにより、前年度から319百万円増加し、2,268百万円となった。
- (2) 経常費用は、入院収益の増に伴う材料費の増などにより前年度から217百万円増加し、2,239百万円となった。
- (3) 経常損益は、前年度より102百万円改善し、29百万円の黒字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	30	30	0	100.0	
	入院	延患者数	人	8,829	9,132	303	103.4
		1日当たり患者数	人	24	25	1	104.2
		新規患者数	人	897	919	22	102.5
		平均在院日数	日	8.9	8.9	0.0	100.0
		診療単価	円	142,485	160,566	18,081	112.7
	外来	延患者数	人	145	177	32	122.1
		1日当たり患者数	人	1	1	0	100.0
		新規患者数	人	138	177	39	128.3
		診療単価	円	484,552	341,475	△ 143,077	70.5
経常収益	入院収益	百万円	1,258	1,466	208	116.5	
	外来収益	百万円	70	60	△ 10	85.7	
	その他医業収益	百万円	8	11	3	137.5	
	医業収益計	百万円	1,336	1,538	202	115.1	
	一般会計繰入金	百万円	0 (700)	0 (785)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	559	676	117	120.9	
	その他収益	百万円	54 (224)	55 (218)	1	101.9	
合計①	百万円	1,949 (924)	2,268 (1,003)	319	116.4		
経常費用	給与費	百万円	1,249 (44)	1,284 (36)	35	102.8	
	材料費	百万円	381	528	147	138.6	
	経費	百万円	283 (625)	301 (722)	18	106.4	
	その他医業費用	百万円	22 (210)	21 (204)	△ 1	95.5	
	医業費用計	百万円	1,935 (879)	2,134 (962)	199	110.3	
	その他費用	百万円	87 (43)	106 (42)	18	121.8	
合計②	百万円	2,022 (922)	2,239 (1,003)	217	110.7		
経常損益 ③(①-②)	百万円	△ 73 (0)	29 (0)	102	—		
特別利益 ④	百万円	0	0	0	—		
特別損失 ⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 73 (0)	29 (0)	102	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算(派遣職員給与費、経費等)を()外書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 高度救命救急センターとして、医療の質及び救命率の向上を図るため、I V R - C Tを備えたハイブリッドE R（高度救命初療室）における外傷初療プロトコルを確立し、実践・改訂を行っている。
- ② 神戸市を始めとする県内消防署及び2次救急医療機関と一層の連携を強化し、重症患者の受入れ促進を図っている。
- ③ 基幹災害拠点病院として、G20大阪サミット（6月）やラグビーワールドカップ神戸会場（9～10月）に要員を派遣したほか、災害時医療活動訓練やDMA T隊員研修、その他災害医療従事者の人材育成を継続して実施している。
- ④ 第25回日本災害医学会総会・学術集会及び災害医療県民フォーラム（2月、神戸国際会議場）を開催し、研究成果を発信するとともに、大規模災害への備えについて議論を深めた。



(2) 施設・医療機器の整備

- ① 電動ベッドの更新（14台、10百万円）
- ② 脳波計の更新（5百万円）

3 今後の取組

- ① ハイブリッドE Rを活用した診療体制の向上、E C P R（V - A E C M Oを用いた心肺蘇生）症例の積み重ねを行う。
- ② 2次医療機関との病病連携を強化し、後送病院の確保を図る。
- ③ 医師・メディカルスタッフの研鑽の場を提供し、個々の診療レベルのさらなる向上を図る。
- ④ 現在のB C Pは地震想定部分が多いことから、感染症や風水害にも対応できるようブラッシュアップを図る。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、DMA T隊員や救急救命士の研修を実施し、引き続き災害医療従事者の人材育成を図る。

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	リハビリテーション 中央病院 管理部	代表 078-927-2727 内線 2226	管理局長 中山 嘉久 (管理部長 西村 秀彦)	

令和元年度 県立リハビリテーション中央病院の経営状況について

1 経営状況

- 経常収益については、平成30年10月に取得した回復期リハビリテーション病棟入院料1の通年化及び平成31年4月から一般病棟（50床）を障害者病棟に変更したことに伴う増収により、入院収益は前年に比べ110百万円増となった。
- 経常費用については、修繕費など経費の増等により、前年度に比べ109百万円の増となった。
- その結果、経常損益は、前年度よりも1百万円増加し、12百万円の黒字となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	330	330	0	100.0	
	入院	延患者数	人	99,690	99,350	△ 340	99.7
		1日当たり患者数	人	273	271	△ 2	99.3
		新規患者数	人	1,456	1,481	25	101.7
		平均在院日数	日	67.5	66.1	△ 1.4	97.9
		診療単価	円	31,907	33,120	1,213	103.8
	外来	延患者数	人	54,320	52,905	△ 1,415	97.4
		1日当たり患者数	人	223	220	△ 3	98.7
		新規患者数	人	2,622	2,537	△ 85	96.8
		診療単価	円	18,716	19,094	378	102.0
経常収益	入院収益	百万円	3,181	3,291	110	103.5	
	外来収益	百万円	1,017	1,010	△ 7	99.3	
	その他医業収益	百万円	64	63	△ 1	98.4	
	医業収益計	百万円	4,262	4,364	102	102.4	
	一般会計繰入金	百万円	0 (348)	0 (321)	0	—	
	指定管理料収入	百万円	300	274	△ 26	91.3	
	その他収益	百万円	82 (397)	115 (409)	33	140.2	
	合計①	百万円	4,644 (745)	4,753 (730)	109	102.3	
経常費用	給与費	百万円	2,593 (22)	2,646 (22)	53	102.0	
	材料費	百万円	1,057	1,082	25	102.4	
	経費	百万円	983 (301)	1,014 (275)	31	103.2	
	その他医業費用	百万円	0 (375)	0 (386)	0	—	
	医業費用計	百万円	4,633 (698)	4,742 (683)	109	102.4	
	その他費用	百万円	0 (47)	0 (47)	0	—	
	合計②	百万円	4,633 (745)	4,742 (730)	109	102.4	
経常損益 ③(①-②)	百万円	11 (0)	12 (0)	1	—		
特別利益 ④	百万円	0	0	0	—		
特別損失 ⑤	百万円	0	0	0	—		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	11 (0)	12 (0)	1	—		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 「子どものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター」における脳性麻痺等肢体不自由児、睡眠障害等に対する包括的な対応
- ② 一般病棟（50床）の障害者病棟への変更による神経難病患者に対する、より質の高い医療の提供
- ③ ロボットリハビリテーションの臨床応用

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 超音波診断装置（約13百万円）の更新（元年9月）
- ② 一般撮影用FPD装置（約38百万円）の更新（元年9月）

3 今後の取組

- ① アスリートのスポーツ現場への早期復帰をサポートするため、「スポーツ医学診療センター（仮称）」を開設（令和3年度）
- ② リハビリテーション入院機能の充実

【参 考】 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (水)	リハビリテーション西播磨病院 業務部	代表 0791-58-1050 内線 -	管理局長 田村 賢一 (業務部長 田中 哲也)	県政記者 クラブ

令和元年度 県立リハビリテーション西播磨病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、病床利用率の増及び SPECTの実施件数増などにより医業収益が増加したため、前年度から32百万円増加し、1,856百万円となった
- (2) 経常費用は、SPECTの実施件数増などに伴う材料費の増加により、前年度から12百万円増加し、1,827百万円となった。
- (3) 経常損益は、前年度から19百万円増加し、29百万円となった。

区分	単位	平成30年度	令和元年度	前年度比較			
				増減	割合(%)		
業務量	病床数(年度末)	床	100	100	0	100.0	
	入院	延患者数	人	34,652	34,838	186	100.5
		1日当たり患者数	人	95	95	0	100.0
		新規患者数	人	471	499	28	105.9
		平均在院日数	日	72.7	68.6	△4.1	94.4
		診療単価	円	37,997	38,557	560	101.5
	外来	延患者数	人	10,750	10,471	△279	97.4
		1日当たり患者数	人	44	44	0	100.0
		新規患者数	人	1,287	1,327	40	103.1
		診療単価	円	28,152	31,494	3,342	111.9
経常収益	入院収益	百万円	1,317	1,343	26	102.0	
	外来収益	百万円	303	330	27	108.9	
	その他医業収益	百万円	27	32	5	118.5	
	医業収益計	百万円	1,646	1,705	59	103.6	
	一般会計繰入金	百万円	0(176)	0(157)	0	-	
	指定管理料収入	百万円	145	124	△21	85.5	
	その他収益	百万円	33(189)	27(220)	△6	81.8	
	合計①	百万円	1,824(365)	1,856(377)	32	101.8	
経常費用	給与費	百万円	1,048(10)	1,035(11)	△13	98.8	
	材料費	百万円	285	315	30	110.5	
	経費	百万円	482(146)	477(125)	△5	99.0	
	その他医業費用	百万円	0(180)	0(210)	0	-	
	医業費用計	百万円	1,815(336)	1,827(346)	12	100.7	
	その他費用	百万円	0(29)	0(31)	0	-	
合計②	百万円	1,815(365)	1,827(377)	12	100.7		
経常損益③(①-②)	百万円	10(0)	29(0)	19	-		
特別利益④	百万円	0	0	0	-		
特別損失⑤	百万円	0	0	0	-		
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	10(0)	29(0)	19	-		

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算(指定管理料、派遣職員給与費等)を()書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 神経難病リハビリテーションセンターの充実（パーキンソン病患者への目的別入院コースの設置）
- ② データ提出加算算定等による回復期リハビリテーション病棟入院料1の維持

(2) 施設・医療機器の整備

- ① エックス線テレビ装置（39百万円）の更新（令和元年9月）
- ② 医用画像管理システム（25百万円）の更新（令和2年3月）
- ③ 電子内視鏡システム（9百万円）の更新（令和元年9月）

3 今後の取組

- ① 摂食・嚥下支援センター（仮称）の開設（令和2年11月）

[参 考] 兵庫県病院事業全体の経営状況について（別紙のとおり）